

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4070402393		
法人名	株式会社 さわやか倶楽部		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地 (電話番号)	〒802-0045	北九州市小倉北区神岳二丁目10番14号 (電話) 093-513-8887	
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年5月12日	評価確定日	平成20年6月27日

【情報提供票より】(平成20年4月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12 人	非常勤 2 人 常勤換算 11

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> 改築
建物構造	反耐火構造 造り	
	3 階建て	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	<u>有</u> (300,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500 円	

(4) 利用者の概要(4 月 3 日現在)

利用者人数	16 名	男性 4 名	女性 12 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.5 歳	最低 70 歳	最高 102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新小文字病院	林内科病院
---------	--------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小倉のシンボル小文字山を正面に臨み、中心市街地の中に、「グループホームかがやき」がある。隣接の保育園の園児の元気な声を聞きながら、駐車場に着くと、92歳の利用者の出迎えて、ホーム内を案内してくれる。エレベーターで玄関に着くと、居間とオープンキッチンの食堂で利用者と職員が楽しそうな笑い声と会話で盛り上がっている。職員は利用者一人ひとりの個性や意向を大切に、ホーム理念である「慈愛の心・尊厳を守る」を実践し、優しく見守り、さりげない介助をしている。管理者は町内会組長として、積極的に清掃活動などに取り組み、地域からの信頼も厚い。また、家族会を通じて利用者や家族との交流も定期的に開催し、利用者や家族の意向にそった介護サービスの実現に向けて全職員が一丸となって頑張っているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価改善点は8件あったが、管理者や職員全員の頑張りで6件が改善されている。今後は「事業所独自の地域密着型理念の作成」「自己評価を職員全員で作成する」「市町村との連携の強化」「人権啓発活動の活発化」「地域住民の協力を得た避難訓練」などが課題として工夫されることが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者がほとんど作成している。今後は時間の許す限り、少しずつでも職員一人ひとりが、自己評価作成に努め、自己評価、外部評価で得たものを、介護サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。入居者、家族会、老人会役員、町内会役員、会長、地域包括支援センター職員、ホーム管理者、職員で構成し、ホームの現状、今後の行事報告と問題点等、活発に討議し、双方向的会議として充実している。今後は様々な問題や相談ごとを議論し、介護サービスの質の確保と質の向上に繋げていくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置したり、定期的に家族アンケートを事業本部に家族から直接返送してもらい、家族の苦情、意見、要望を把握し、運営やサービスに反映できるように努力している。また、苦情処理窓口担当者の大きな写真を事務室横に掲示し、気楽に話せる雰囲気を作っている。苦情等に関しては「サービス改善ボード」を張り出し、職員全員で回覧し、家族の意見が反映できる体制である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者や職員は地域の「ふれあい昼食会」「ふれあい体育祭」「敬老会」「ふれあい餅つき大会」などに参加している。また、ホーム主催のかがやき祭りでは駐車場で豚汁、お汁粉などを料理し、近隣の方々と一緒に食べて交流が図られつつある。ホーム管理者が町内会組長として、清掃活動などで地域密着に貢献し、地域から信頼されるグループホームとして存在感が出てきている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループ全体の理念として、「慈愛の心・尊厳を守る」を掲げ、馴染みのある地域でその人らしく暮らせるように支援している。		地域密着型サービスの意義は理解されているが、事業所独自の地域密着型理念の作成が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し日々の介護サービスを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、今年度はホームの責任者が組長となり、会合や行事に積極的に参加し交流を図っている。特に「ふれあい昼食会」では、利用者の馴染みの方が多く、毎月4名の利用者が交代で参加し楽しめている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで、課題を見直し全体会議等で話し合い改善に取り組んでいる。自己評価、外部評価の結果は誰でも閲覧できるように設置している。		自己評価は管理者のみで作成するのではなく、全職員で取り組むことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会、老人会、家族、利用者、地域包括支援センター職員等が参加し2ヶ月に1回開催している。行事報告や事故報告、ヒヤリハット等を報告し、改善策を説明している。また、情報交換を行いサービスの向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の問題等、判断に迷う場合は市の担当者や地域包括支援センター、介護相談員等に相談し助言をもらっている。		市町村との関係づくりを積極的に行い、今後は協働関係を構築していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見人制度について、外部研修に参加しホーム内で伝達講習を行っている。現在1名が成年後見制度を利用している。パンフレットや説明資料を準備し、家族にも説明し、理解してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「かがやき新聞」を作成し、家族に郵送している。また、担当職員が絵手紙を作成し現状を報告している。金銭管理については、毎月報告書を郵送し確認印を頂いている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口担当者の写真と名前を各フロアーに掲示し、いつでも意見や希望が言える雰囲気づくりに努めている。また、定期的に家族アンケートを郵送でお願いし、事業本部に直接返送してもらい、家族の意見が反映できるように取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は必要最小限に抑える努力をしている。やむを得ず職員が代わる場合は、1ヶ月の引継ぎ期間を設け利用者との馴染みの関係ができるように配慮している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象からは排除していない。定年制を65歳としているが、本人の能力に応じて継続勤務も可能となっている。職員はお花や書道などの特技を業務に活かしている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	新人研修の際に人権についての指導を行っている。日々の業務の中でも、利用者に対する声かけや態度など人権を尊重するように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修会は定期的に行われ、習熟度に応じた研修を受講できるようになっている。また、外部研修については研修費用を事業本部が半額負担することで、職員の負担軽減を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内の交流会に参加し、情報交換を行っている。		他事業所との交流の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組みられることが望まれる。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1日体験入居をしていただき、ホームに慣れてもらえるように配慮している。体験にこれない場合は、責任者が訪問し説明を行い、安心してサービスの利用ができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理が得意な利用者から料理を教えてもらったり、一緒に献立を考え、買い物に行くなど共に支えあう関係を大切にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から趣味や得意なこと、嫌いなこと、希望や意向を聴取している。意向表出困難な利用者に対しては、センター方式のアセスメントを利用して、日々の心身の状態を把握し、本人らしく生活できるようにサービス内容を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族を交えて担当者会議を開催し、「自分らしく、安らかに、活き活き」と暮らせるように、希望や意向を反映し、本人主体の介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回見直しを行っている。また、変化があった場合には家族に報告を行い、随時計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、買い物や通院の支援を行っている。また、受診結果は家族に報告をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、入居前からのかかりつけ医での医療が受けられるように支援している。また、月に2回提携病院より訪問診療を受診し、利用者の健康管理に努めている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年1名、終末期の利用者の看取りを行った。家族、かかりつけ医、訪問看護との連携を図り、状況の変化に合わせてカンファレンスを開きながら、情報の共有を図り看取りに対応した。		事業所として、重度化した場合や終末期のあり方についての方針を作成し、関係者全体との方針の共有や支援方法についての共有化が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように教育、指導を行い徹底を図っている。個人の記録等の情報の取り扱いについては管理者や職員相互間で注意し合うと共に、保管場所は施錠し、鍵は管理者が管理している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、今までの生活に近い状態で、趣味や散歩、買い物など本人の希望に沿った支援をしている。食事に時間のかかる方にも、急がせることなく本人のペースに合わせて食事介助をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聴き、1週間毎のメニューを作成し一緒に買い物に行っている。台拭きや配膳、後片付けなどをし、食事は職員も同じテーブルを囲み楽しく食事ができるよう工夫をしている。また、月に1回の外食を取り入れ利用者にも好評を得ている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯も利用者の希望に沿って支援をしている。入浴を好まれない利用者には、本人の状態やその日の気分などを考慮し、職員が上手に声かけし入浴をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、お茶、お花、書道など一人ひとりの力が発揮できるような支援をしている。調査当日は利用者の方がホーム内を案内していただき、本人も自分の役割として楽しまれている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や声かけにより、散歩や買い物、外出の支援をしている。利用者の自宅に友人と一緒に帰宅するなど、家族の協力を得て実施している。		
への					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけて欲しいとの家族の要望があるが、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、朝の掃除時や園芸の時間、午後の短時間の開放などに取り組んでいる。		エスケープ、不審者の侵入を防ぐことや家族の希望等から鍵の開放はしていないが、今後は玄関の位置を工夫したりして、鍵をかけないケアの取り組みが望まれる。
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの訓練を年に2回実施している。ホーム内では毎月夜間想定避難訓練を実施し、迅速に対応できるようにしている。		運営推進会議を通じて、夜間を想定した避難訓練を地域住民の協力を得て、実施できるようにお願いしたり、非常食、飲料水、毛布等の備蓄が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食記録をとり、職員が把握できるようになっている。水分は毎食事、午前、午後のおやつ時、入浴後、寝る前と細かく摂取するようにしている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はオープンになっており食事の準備風景が利用者から見えるようになっている。居間には母の日のカーネーションが飾られ、壁には季節に応じたの絵や折り紙が飾られるなど季節感を取り入れる工夫がされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた家具や人形、仏壇などが持ち込まれ本人が安心して生活できるように配慮されている。		